



## 「越佐歴史資料調査会」の 結成について

本年6月に新潟県内で歴史研究や史料保存活動に関心のある者が集まり、「越佐歴史資料調査会」を結成しました。歴史資料の調査・整理を進めていこうとするボランティアの集まりです。当分は会員制をとらず、世話人（現在7人）が協議し、文書群ごとに史料調査を企画して参加者を募ることにしました。年に2回程度の史料整理と調査成果の説明会ができればと考えています。専門の歴史研究者ばかりでなく、なるべく幅広く地元の古文書学習会の方や郷土史に関心のある方、行政関係者や教員など初心の人にも参加いただいて、それぞれが出来ることを分担して実施しています。

第1回目の調査は8月17～19日に東頸城郡安塚町山口家文書の整理を行い24名の参加をえました。今後、もし都合がつかましたら県外からも参加協力いただいてネットワークを広げることができれば幸いです。

以下は「呼び掛け文」の趣意部分です。

- 1、戦後、とりわけ高度経済成長以降、都市化・過疎化等で地域社会が急速に変貌を遂げました。それと平行して地域に残された歴史資料の散逸・流失・滅失も進行してきたことはこれまでも度々指摘されてきたところです。

私たち越後・佐渡の歴史や文化に関心をもち学び研究しようとするものにとって、先人の残したかけがえのない歴史資料を護り後世に伝えることは緊急を要する責務であると思われます。

- 2、新潟県内を対象とした歴史研究や学習会はこれまで活発に実践されてきました。しかし、近年やや個別分散的な傾向が生まれ、それぞれ個々の研究状況も次第に停滞化しつつある傾向もみうけられ

ます。そこで共同で史料調査を行うことを通して、幅広い参加者の自由で対等な交流及び学習・研究の場が生まれ、同時に史料保存のネットワークが広がることを願っています。

3、地域の人々と歴史学の関わりはこれまで必ずしも十分ではなかったように思われます。そこで市民参加の活動を目指し、より多くの人に歴史資料の保存・活用の重要性や地域史への理解が深まるように具体的な実践に取り組みたいと考えます。

4、近年の文書館論や史料整理方法の進展に学び、なお史料の現地主義（現地保存・現地整理・現地利用）の原則もふまえて、現状を尊重した整理やフィールドワークの在り方を追求していきたいと思えます。

山本幸俊・前新潟県立文書館